

エンジンの音と振動によるバイクシミュレータ酔いの低減効果：その有効要因の検証

林真光(情報科学科), 板口典弘(学術院情報学領域), 相合皓介(情報科学科), 澤田悠伎(情報科学科), 宮城拓弥(情報学専攻), 上田誠也(情報学専攻), 三木将行(ヤマハ発動機), 木村哲也(ヤマハ発動機), 宮崎真(学術院情報学領域)

自動二輪運転者の行動評価を安全に行うにあたってシミュレータの利用が有効である。しかしながら、その利用にはシミュレータ酔いの問題が伴う。我々の研究グループは、走行風景と連動したエンジンの音と振動を同時に呈示することでシミュレータ酔いを低減できることを報告した(林ら. 日本神経科学大会 2019)。その低減効果を説明する要因として以下の3つの可能性が挙げられる：1. エンジンの音の付加, 2. エンジンの振動の付加, 3. 1と2の相乗効果。本研究では、これらのいずれがシミュレータ酔いの低減効果に有効なのかを検証するために、(1) エンジン音のみを走行風景に付加する条件, (2) エンジンの振動のみを走行風景に付加する条件による実験を行っている。本発表ではその進捗を報告する。